

## 都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	奈良県	市町村名	宇陀市	地区名	拾生・松山地区	面積	328 ha
計画期間	平成 17 年度 ~ 平成 21 年度	交付期間	平成 17 年度 ~ 平成 21 年度				

### 目標

大目標：自然と歴史を活用し住民との協働による、住みやすさと住みがいのあるまちづくりの推進

目標：①歴史資産を活用した中心市街地の賑わいの再生

目標：②誰もが安心して快適に暮らせる生活環境の創出

目標：③観光資源を活用した交流促進による地域の活性化

### 目標設定の根拠

#### まちづくりの経緯及び現況

鮮やかな四季の表情が山野を彩る大宇陀は、美しく豊かで、静かな自然のひろがりの中に万葉のドラマをはじめ、豊富な歴史的文化遺産を有する町です。かつて、飛鳥時代には『阿騎野』と呼ばれ、宮廷の狩場としてその名をとどめています。万葉の歌人、柿本人麻呂の秀歌『東の野に かぎろひの立つ見えて かえり見すれば 月傾きぬ』は、軽皇子(後の文武天皇)の狩りの供として当地を訪れ詠んだものです。室町・戦国期には、城下町の整備が進み、関ヶ原合戦の後、城下町の名を『松山町』と改めたといわれています。江戸時代のはじめには、織田信雄(信長の次男)が当地に封ぜられ、依頼、織田松山藩三万石余りの城下町として栄え、奈良、郡山に次ぐ大きな町となりました。特に、宇陀、吉野、伊勢方面への物資が集散し宿場町とし、また、宇陀・吉野の政治、経済、文化の中心地として賑わいました。その後昭和17年当時の松山町、神戸村、政始村、上竜門村が合併し大宇陀町が誕生しました。現在当地区は、国道370号、166号が交わり、吉野方面へ訪れる観光客が多く立ち寄り、平成9年に設置された道の駅は、当時の面影を残す交通の要衝として賑わいをみせています。また、近鉄大阪線の榛原駅(特急停車)から、バスで20分と比較的便利な場所に位置しています。近年、人口の減少と高齢化が進む中、町の活力が停滞しつつあり、自然と歴史を活用した街なみの充実策や広場・緑地等を整備することにより、住みやすさと住んで良かったと思える町にするため、上記目標3項目からなる総合計画に沿ってまちづくりを進めている。

①中心市街地である「松山地区」は、江戸時代後期以降の町屋建築が連なる伝統的な街なみ景観の残る特徴的な地区である。平成11年度より街なみ環境整備事業が展開され、平成16年度には「伝統的建造物群保存地区保存条例」が制定され、平成18年7月には重要伝統的建造物群保存地区の選定を受けた。今後は観光客の増加を目指し市街地の活性化を再生する計画である。

②『心の森総合福祉公園』計画を打ち出し、平成11年度には温泉を利用した健康増進施設『多世代交流プラザ』と民間による特別養護老人ホームを施工した。また、平成14年度には、少子化対策の一環とし、5ヶ所の保育所と1ヶ所の幼稚園を1ヶ所に集め合同で保育するとともに、子育て支援事業の充実や一時保育も行っている。平成15年度には3,000㎡の人口芝のアリーナを有する『多目的交流ドーム』も完成した。今後、子どもから高齢者まで多世代が交流できる広場等の整備を行うことにおいて、現有施設との連携も図れ、心の森総合福祉公園計画に相乗効果を与え、快適な生活環境の創出が図れる。

③夏には地域上げての夏まつりを開催し、帰省した人々と地域住民との交流の場となっている。冬には標高380mの大宇陀でしか体験できない満点の星空を背景にした、イルミネーションを実施している。子ども達に夢を与え、少子化の進む中将来のUターンの一助にもなればとの願いも込め、地域住民が一丸となり様々なイベントを展開している。また、町内第1号のNPOも認可され、まちづくりに対する機運も高まりつつある。

#### 課題

- ・道の駅を中心に、松山地区への人の流れを確保し、衰退した商業の活性化を図る必要がある。更に都市との交流を図るうえで、観光客の増加につながる情報提供や、遊休農地を活用した農業体験事業も実施し、更なる交流の促進を図る必要がある。
- ・心の森総合福祉公園計画で設置された各施設との連携が現時点においては効果的に運営できていない。そのため、保健・福祉機能の備わった施設に指導員の育成を図るとともに、活用できていないスペースを広場・緑地に整備し、心の森一帯を福祉やレクリエーションに適した安らぎ感のある環境整備をする必要がある。
- ・各種イベントを住民自ら企画運営できるノウハウを体得してもらうため、地区内の早期退職者等に参画を呼びかけ、第一線で培った能力を発揮してもらい、イベント等を通じまちづくりに参画してもらえる環境を醸成し、住民主体のまちづくりを目指す必要がある。

#### 将来ビジョン(中長期)

広場・緑地等の整備を行い、健康・福祉エリアの形成を図ることにおいて、誰もが大切にされ、いきいきと暮らす豊かな地域社会を築きます。

人々が集う機能を高め賑わいの場づくりを進め、併せて市街地環境のうらおいや、地域活性化に寄与する環境整備を目指します。

### 目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
				基準年度	目標年度	基準年度	目標年度
道の駅『宇陀路大宇陀』の来場者数・販売額	人/年	道の駅『宇陀路大宇陀』の来場者数	利用者数を指標とし中心市街地の活性化をはかる。45万人を目指す。	35万人	17年度	40万人	21年度
都市と農村の交流者数	人/年	農業体験を通じての都市との交流人口の増加を図る。	農業体験を通じ都市との交流人数を指標とする。	—	17年度	200人	21年度
おおうだ温泉『あきののゆ』来場者数	人/年	おおうだ温泉『あきののゆ』来場者数	快適に暮らせる生活環境の創出度をはかる。18万人を目標とする。	14万人	17年度	18万人	21年度
イベントの実施による参加者数	人/年	手作りイベントを実施することによるコミュニケーションの醸成	まちの活性化を図るため、ボランティア参加人数を指標とする。	700人	17年度	2,000人	21年度